

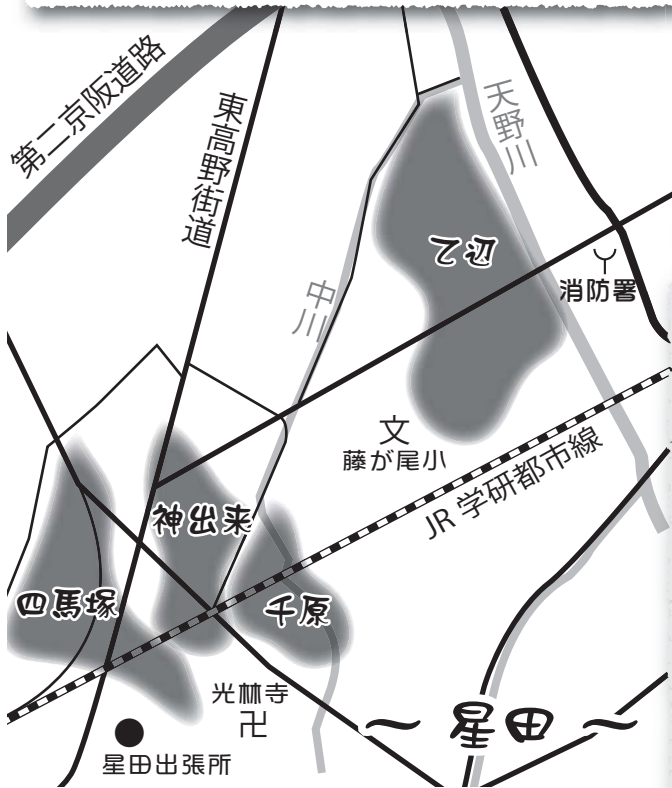
まちの名に 歴史あり

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

おつべ 現在の乙辺浄化センターの辺り
て辺 です。今は「おつべ」と言います。しかし、江戸時代の絵図には「乙の辺」あるいは「落野辺」と記載されているので、「おつべ、かおちのべ」と発音していたことが分かります。中川が天野川に合流する地点にあり、この地形の一番低い場所となっていることから「落野辺」となったのかもしれませんが。



乙辺 (平成 11 年)



ほしだ 星田という地名の由来について、「交野市史 民俗編」で2つの説が挙げられています。
星田

1つは星信仰という自然崇拜からきたとする説で、妙見山や八丁三所などの星にまつわる伝説があります。

もう1つは、水田に向かない乾いた土地という意味で「干す」から名付けられたとする説です。これは稲作ができないために牛馬の放牧地となった地域があったことからだと考えられます。

かんでら 神出来は、交野の中でも特に読み方の難しい地名の1つです。
神出来

江戸時代の絵図や記録には「上寺」または「神寺」と記されています。この「かんでら」とは光林寺のことを指し、光林寺はもともと「神寺」と呼ばれていたという伝承があります。

明治時代に行われた神仏分離では、仏教を外来の宗教と考える運動が全国的に展開されました。その際に「神寺」という名前が神仏分離に反しているとして、寺と関係のない「出来」という当て字が使われたのではないかと『星田歴史風土記』に書かれています。

星田村絵図 (天保 14 年)



しばづか 神出来の西、東高野街道沿いにあり、江戸時代の文献には「芝塚」とあります。
四馬塚

この塚とは一里塚のことです。昔の旅人への距離の道しるべとして、1里(約4km)ごとに街道の両側に松などの樹木を植えていました。交野地方では星田の四馬塚に松を植えた一里塚がありました。



四馬塚の一里塚 (昭和 50 年)

ちはら 中川が星田の旧集落を出た左岸、神出来の東側を千原と言い、「茅原」と記されているものもあります。
千原

中川が氾濫した時に浸水する低湿地であったため、茅や背の高い草が一面に生い茂っていたのでしょうか。湿地であったため、星田でも一番早く水田となっていたと言われています。